





## 令和6年度「地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)」採択チーム紹介

【チーム名】チーム学教	【代表者】香取むつみ(教育学部 3年)
【プロジェクト名】在留外国人家族と地域をつなぐ多文化防災キャンプ in 西原町	
<p data-bbox="193 336 494 376">【プロジェクト概要】</p>  <p data-bbox="510 376 1388 526">「在留外国人家族と地域をつなぐ多文化防災キャンプ in 西原町」は、誰もが安心して生活できる西原町を目指し、私たちと在留外国人、地域が一体となって災害時における外国人対応の発展に取り組むプロジェクトです。</p> <p data-bbox="510 533 1388 683">現在、西原町には815名の在留外国人が生活しています。災害発生時、日本語での情報を受け取ることが難しく、孤立してしまいがちな在留外国人への適切な対応の確立は、地域社会が抱える課題のひとつです。</p> <p data-bbox="193 698 1388 981">このプロジェクトでは、西原町に住む外国人家族や地域、学校、役場と連携しながら多文化防災キャンプを実施し、そこで得られた成果と課題をもとに、西原町に住む外国人に向けた防災パンフレットを作成します。キャンプでは、炊事や寝泊りといった実際の日本の避難生活を体験しながら、避難経路や緊急時に取るべき行動の確認など、参加者の防災知識向上に役立つ防災プログラムを行います。同時に、在留外国人が持つ防災に関する困り感や体験談などを共有するワークショップを設け、在留外国人と共に生活する地域社会の現状把握と課題発見を目指します。</p> <p data-bbox="193 987 1388 1146">私たちはこのプロジェクトにおいて、『5つのつなぐ』をテーマとして掲げています。「在留外国人と地域」「在留外国人と学校」「在留外国人と私たち」「在留外国人同士」「在留外国人家族の親と子」のつながりを深め、誰も取り残さない共生社会づくりに貢献したいと考えています。</p> <p data-bbox="193 1160 678 1200">☆12月～1月にキャンプ実施予定</p>	


【チーム名】琉球大学琉球方言研究クラブ	【代表者】古波藏祐介(人文社会学部 3年)
【プロジェクト名】金武町金武並里区動植物方言辞典作成プロジェクト	
<p data-bbox="193 1397 494 1438">【プロジェクト概要】</p>  <p data-bbox="510 1438 1388 1588">近年では、方言を日常生活の中で使う機会が減少してきており、話者人口の減少とともに、方言が消滅の危機に瀕している。琉球諸島には 800 以上の方言が存在しているが、その多様性も失われつつある。</p> <p data-bbox="510 1594 1388 1877">生活様式の変化などから、生活の中で動植物と関わるものがなくなっているため、方言の中でも真っ先に動植物語彙が消失するだろうと考えられる。そのような知識をもっている話者さんがご健在なうちに保存が急がれる。そのため、私たち方言研は動植物の語彙を収集し、それに付随する生物文化といった地域の人々の認識や知識をなるべく詳細に記述した資料が必要だと考え、今回のようなプロジェクトを発足した。今回のプロジェクトは、他の多くの保存を要する地点の足がけとなるだろう。</p> <p data-bbox="193 1883 1388 2004">この資料は、動植物語彙のアクセントや対応する日本語、それに付随する地域の風習や行事、かつての日常生活などを詳細に記述していることから、保存の観点だけでなく、その地域での方言の継承や普及、地域性の再確認などが期待される。</p> <p data-bbox="193 2020 949 2060">☆9月21日、22日の琉大祭にて発表会を実施予定</p>	


## 令和6年度「地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)」採択チーム紹介

【チーム名】Protect the beach	【代表者】布施咲笑(理学部 4 年)
【プロジェクト名】美しいビーチを守るプロジェクト	
【プロジェクト概要】	
	<p>沖縄の砂浜は他の地域と違い、98%以上が生物由来である。研究の結果、砂浜を構成する生物の殻や骨格は数百年前のものであるということが分かっている。つまり、沖縄の砂浜は数百年の時間をかけて形成されたものなのである。しかし、この砂浜の砂を「珍しいから」「きれいだから」などという理由で持って帰ってしまう人が後を絶たない。形成に数百年かかるのに対し、持ち帰るのは数分でできてしまう。今、沖縄の砂浜はどんどん減ってしまっている。これを食い止めるため、砂浜の砂を勝手に持ち帰ってはならないという条例を沖縄県が独自に定めているが、観光客どころか沖縄県民にもあまり知られていない。</p> <p>本チームはこの問題に対処するため昨年度から活動を開始し、出前授業や小学生向けの学内イベント、絵本作成などに取り組んできた。沖縄の砂浜の砂の特徴や価値を地域の方々に知ってもらうことで、沖縄の砂浜の破壊の抑止力になってもらう。また、「持ち帰りたいけど持ち帰ってはいけない」を体験してもらうことで、次世代を担う小学生の道徳心形成の一助となりたいと考えている。</p> <p>この活動を昨年度は本島の人々に向けて行っていた。しかし、砂浜の破壊は本島よりも離島の方が顕著である。今年度は離島を主な活動の場としたい。</p> <p>☆8月に琉大内でのイベント、9月に石垣島でのイベントのほか、日帰りで行ける離島でのイベントを実施予定</p>

【チーム名】琉大牛部	【代表者】當間弓月(農学部 4 年)
【プロジェクト名】PCT(Poop Cleaning Tool)改良プロジェクト	
【プロジェクト概要】	
	<p>畜産は、人間にとって重要なタンパク質の供給源となる畜産物を生産している。また、地域の農地や環境の守り手であるとともに、食と命の教育などの多面的機能をもっている。令和3年度では、沖縄県の農業産出額は922億円であり、うち畜産業は420億円(構成比45.6%)となっている。その中でも肉用牛は209億円(畜産部門における構成比49.8%)と大部分を占めており、沖縄県の基幹的な農業であるといえる。しかし、全国の農業労働力の推移は減少している。その中で、基幹的農業従事者の約4割を女性が占めており、今後の農業の発展、地域経済の活性化のためには、生産・販売の現場で大きな役割を果たしている女性農業者が力を発揮していけるようにすることが必要と考えられている。しかし現状において、畜産業では、きつい・きたない・くさい等のイメージが定着しているとともに、女性の参入を支援するような労働力削減の道具改良は進んでいない。</p> <p>そこで本プロジェクトでは、家畜の健康観察や快適な飼養環境の維持に欠かせない「ボロ出し」という作業に焦点を当て、女性の力でも効率よく作業を行えるとともに、女性が手に取りやすいデザインも取り入れながら視覚的にも楽しめるようなボロ出し器具の開発を行い、女性の畜産参入及び支援を後押しするための足掛かりとすることを目的とする。</p>

## 令和6年度「地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)」採択チーム紹介

【チーム名】いもじょーぐー	【代表者】大上智裕(農学部 4 年)
【プロジェクト名】うちなーいも魅力発信プロジェクト	
【プロジェクト概要】	
	<p>チーム名は、沖縄の方言で「芋好き」という意味です。そんな私たちが注目したのは沖縄の甘薯栽培についてです。私たちは、沖縄県での甘薯栽培における品種の偏りが問題となっていることを知りました。お土産の原料となる紅芋の栽培に偏ってしまっているそうです。この品種の偏りは、土壌病害の蔓延や観光業への依存などの地域課題につながっています。そこで、紅芋以外の魅力的な品種を見出し、これらの地域課題に取り組んでいこうと考えました。</p> <p>私たちは、シモン芋と呼ばれる品種に着目しました。シモン芋は、琉球大学でも栽培が行われています。見た目から白甘薯とも呼ばれており、栄養価が高いなど魅力がいっぱい詰まっている品種の1つです。</p> <p>このプロジェクトの主な取り組みとしては、シモン芋を用いた商品開発および活用の模索とシモン芋の魅力発信です。商品開発については地域の企業さんの協力のもと行い、魅力発信については農業高校の皆さんと一緒に活動していこうと考えています。</p> <p>栽培から販売までを見通すことができるようなプロジェクトにし、多くの農業従事者の皆さんをはじめとする農業に関連のある、興味のある方たちの目に留まるようなものにしていこうと思います。</p> <p>☆9月21日、9月22日の琉大祭に出展(開発した商品の販売、魅力発信)、12月以降にワークショップを実施予定(開発した商品紹介、魅力発信)</p>

【チーム名】植物性コンクリート愛好会	【代表者】宮本祐香(工学部 4 年)
【プロジェクト名】コーヒー粕を未来の新素材に再資源化プロジェクト	
【プロジェクト概要】	
	<p>沖縄県だけでなく、日本全国には産業廃棄物の処理方法に課題があります。今回テーマとしているコーヒー粕もその1つです。日本のコーヒーの消費量は世界第4位で、年間約42万トン(2021年)消費され、廃棄されるものは粕の重さと同程度の水分を含むことから実際にはその倍の約85万トンの廃棄物が発生しています。また、この膨大なコーヒー粕を処分するために、多くの埋め立て地や焼却エネルギーが必要であることや、長時間放置されて腐敗したコーヒー粕から温室効果の高いメタンガスや二酸化炭素が発生することが問題視されています。これらを解決するために、コーヒー粕を利用したボタニカルコンクリートの開発を研究しています。ボタニカルコンクリートとは熱プレスのみで作成されるもので、植物中のリグニンという成分を接着剤としています。この方法を用いることで、産業廃棄物として処理される植物の量を減少させ、二酸化炭素の削減に期待ができます。そこで、このボタニカルコンクリートに使用する植物をコーヒー粕にすることで、前述の問題点の解決に期待できるだけでなく、今まで存在しなかったコーヒー粕を使ったコースターという話題性が生まれ、地域活性化の1つにしたいと考えています。</p> <p>☆9~10月及び12~2月に Free Trees(八重瀬町)を実施予定</p>